

令和5年4月12日

# 南の風 For Junior / 20

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

令和5年度になりました。今年度も「南の風 For Junior」をよろしくお願いいたします！

119号の続きです。高校でのバスケットボール活動の特徴として、戦術の中で3P シュートの比重が大きくなります。この時期は体の成長に伴い、体幹の強さや筋力の発達が見られ、またウエイトトレーニングが導入される効果もあり、3P シュートの確率が伸びる時でもあります。U15の時代の戦略・戦術と様変わりしていくことになります。

そこで3P シュートの重要性を、『シュートの期待値』を通して見ることにします。

現在、どのカテゴリーでもオフェンス戦術として、ドライブモーションオフェンスが注目されています。このオフェンスが一躍脚光を浴びた背景には、東京五輪で女子日本代表が見せた（トム・ホーバス HC が取り入れた戦術）、5アウトを中心としたドリブルドライブモーション（ドリブルドライブモーションの基本形は4アウト1イン）があります。南の風でも紹介しましたが、U15の皆さんにも今後の参考になるとお思いますので、もう一度取り上げます。

このオフェンスを考案したのは、2000年にアメリカのメンフィス大学の HC に就任したジョン・カリパリ（現ケンタッキー大学 HC）です。原型はウォールバックの AASAA（アッサー）からです。

彼は、『シュートの期待値』を選手に数字で示しました。2点とか3点とかがいいということではなくて、確率と得点を考えてシュートにどれだけの価値があるのかを以下のように分析して見せました。

バスケットボールの得点の統計を見ると、下記のようになる 《例：0.6＝60％》

- ①ペイント内の2P  $2P \times 0.6 = 1.2$ 点分の価値、期待値がある
- ②フリースロー  $2FT \times 0.7 = 1.4$ 点分の価値、期待値がある
- ③ペイント外の2P  $2P \times 0.4 = 0.8$ 点分の価値、期待値がある
- ④3P シュート  $3P \times 0.3 = 0.9$ 点分の価値、期待値がある

優先順位は②のフリースロー、ファウルをもらえば得点の期待値が一番高い。次が①のペイント内の2P、ドライブでねじ込むか、ファウルをもらう。その次は④の3P（③のペイント外の2P より期待値が高い）であり打つなら3P、こういうシュートセレクションをカリパリ HC は提唱しました。

彼はこうして数字で示すことで、ペイントエリアへのドライブや2P シュートで、ファウルをもらうことによる確率の高さを選手に説くと共に、3P の重要性も示しました。

このカリパリ HC の考え方は、ドリブルドライブモーションオフェンスを指向する指導者やチームに浸透しています。

ドリブルドライブをメインに据え指導しているコーチは、カットやピックプレー（各種スクリーン）でペイントを攻め、アドバンテージを作りクローズアウトを誘い、キックアウトやエキストラで3P シュートを打つ、という戦術を取り入れています。期待値で劣る「ロング2P」（ペイント外の2P シュート）をできる限り少なくし、打つなら期待値で勝る3P シュート、という考えです。

3P シュートの重要性はこのようにして定着しました。